

第1回武田薬品工業湘南研究所の環境保全に関する連絡会について報告

1. 日時 平成25年5月25日(土) 10:00~11:00
2. 場所 武田薬品工業湘南研究所 会議室
3. 出席者 植木町内会、鎌倉ロジューマン、鎌倉岡本ガーデンホームズ、四季の杜自治会、ラシェール鎌倉岡本ハイライズ、レックスガーデン鎌倉岡本、鎌倉グランマークス：(10名出席)(4名欠席)
武田薬品工業湘南研究所：(7名出席)
鎌倉市(環境保全課)：(2名出席)

4. 内容

武田薬品工業株式会社三井研究業務部長の挨拶、各委員の自己紹介の後に、鎌倉市環境保全課長の司会で、別紙次第に従って連絡会が開催されました。主な内容は次のとおりです。

(1) 鎌倉市からの報告

前回の連絡会で報告のありました、武田薬品湘南研究所に関するリスクアセスメントの報告書が、武田薬品工業株式会社社長より市長宛てに平成25年4月10日に提出され受理したことを報告しました。

(2) 武田薬品工業株式会社からの報告

資料に沿って、昨年度1年間に実施した環境測定結果報告及び近況報告、一昨年11月の漏水事故を受けて外部機関に委託したリスクアセスメントの報告、環境モニターの推薦の依頼、研究所周辺で行っているボランティア清掃、秋祭りの状況について説明がありました。

主な内容は次のとおりです。

・環境測定結果報告

排気のボイラー1台の窒素酸化物について管理目標値を超える値が測定されたため該当のボイラーを停止した。その後、ガス流量を微調整し再測定したところ管理目標値以下の値になり運転を再開した。確認のためもう一度測定した結果も同様に管理目標値以下であった。

また騒音については、雷の音や虫の声等で超過した時間帯もあった。

概ねすべての項目について管理目標値を満足していた。

・漏水事故関連報告

前回の連絡会で報告を行った、遺伝子組換え実験の関連排水設備以外の研究所全体のソフト面ハード面の外部機関が武田薬品に行った指摘事項に対する対応が、3月で終了し市長宛てに報告書を提出した。

報告書の内容については、鎌倉市平成25年6月議会において説明を行う予定である。

・環境モニター推薦依頼

昨年度もお願いした環境モニターについて、各自治会町内会に今年度も推薦をお願いします。

・ボランティア清掃、秋祭り

年 4 回研究所職員が研究所周辺のボランティア清掃を行い、昨年秋には秋祭り、春には桜を見る会を開催した。今年も同様の実施を考えている。

主な質疑内容

住民：騒音のモニター表示の撤去とは、どこのモニター表示を撤去するのか。

武田：現在、定期的に騒音測定を行っているのは資料(1)-3 に記されている青のアルファベットで記しているポイントで、年に 4 回、朝、昼、夕、夜の時間帯に測定し、管理目標値を満足しているかを調査している。

撤去を検討しているのは、これとは別に D ポイントの北側と藤沢市域 B ポイント西側で連続測定している 2 箇所の騒音振動測定表示板です。工事期間中に工事による騒音・振動について測定することを目的に設置したもので、工事終了後は年間を通して数値は管理目標値以下であった。

また、近隣住民からこの表示板について「夜間にこの測定表示板の光がまぶしく寝られない」と苦情があった。

そのため現在、鎌倉市側の表示板について夜間は消灯している状況であり、研究所の建設工事も終了しており、本来の役割は終わったと判断している。

したがって、周辺の皆様の同意が得られれば、できれば 10 月頃にはこの測定表示板の撤去を計画していきたい。

住民：継続的に常設している現在のものについては承知した。ただ、自分のところでも低周波かどうかわからないが、騒音を感じることもある。年 4 回の測定だけでなく継続的に注意を払ってほしい。

このようなことを協議することをお願いしたい。今後も、騒音等対応することを確約してほしい。

武田：お約束いたします。測定ポイントの他にも我々は簡易の騒音測定器を持っており、時々敷地境界周辺を計測している。特異な音がする場合は音源を探したり、計測したりと配慮している。敷地北側(鎌倉市側)で「音がする」と訴えがあった時も、すぐに簡易測定器で音を探したが残念ながら、騒音として測定することが出来なかった。

撤去を検討している騒音測定表示板もこの訴える音を測定していなかったもので、実際は役にたっておらず、そこを含めて撤去を検討している。

住民：住民から「音が聞こえる」という訴えがあったことに対して、すぐに対応したが音の確認が取れなかったこと、またその訴えた方からも春から何も連絡がないということだが、ここで終わりにしてしまうのではなく、何かあれば継続的に対応して頂きたい。

武田：了解しました。

住民：排水の測定結果について時系列的に見て気が付くことはあるか。調査期間が短いため、もう少し長いスパンで見たときどうなのか。

武田：排水の中で言うと、TOC（全有機炭素・排水に含まれる有機物の量）について 0～225 と大きい幅で動いている。研究の中で有機物を多く含むものを

排水すると管理目標値に近い値になるのではないかと感じている。努めて流さないように工夫していきたい。

一昨年は一時期、配管のコーティングに使用した亜鉛の洗浄が不十分だったため、少し高い値となった。原因がはっきりしたものは対策をとっている。

管理目標値を守ることを徹底しているため、今後も同様の運用、工夫を行っていきたい。

住民：現状で数値の上昇がみられるものはあるのか。

武田：サビ等で上がるものはあると思うが、日単位、月単位で動くものはない。

住民：排水はまとまった場所で測定しているのか、どこへ排出するのか。

武田：藤沢市の公共下水道へ排水している。研究棟 15 棟他 2 棟から出た排水を 17 カ所の中継貯留槽に集め、簡易測定に合格した排水が最終貯留槽に集められ、藤沢市の下水道へ送られている。

最終貯留槽で測った数値が管理計測数値である。

住民：川へ流されるのか。

武田：藤沢市が下水処理場で処理をおこない、境川に放流されると承知している。藤沢市が 2 か月に一度、最終貯留槽の排水を抜き打ちで採水・測定の検査を行っている。今のところ排水の検査分析データに問題はみられない。

住民：市の報告は先程の口頭のものだけか。

市：リスクアセスメントについて武田より鎌倉市長へ報告書を提出頂いたことと、6 月議会の観光厚生常任委員会で説明をさせて頂くことである。

住民：鎌倉市は報告書を受理して終りなのか。

市：報告書を受理して終りではなく、武田より詳細な説明をして頂く。6 月の議会において武田から詳細説明をして頂いた上で、内容を確認し連絡会に伝える。

住民：議会はいつあるのか。

市：議会の日程もありまだ具体的に決まっていません。

住民：決まったら知らせてもらえないか。

市：了解した。

住民：安全対策の報告は敷地内の出来事について行われているが、近隣住民への対応など大災害時の連絡体制はどのようになっているのか。

連絡体制の手順について早く確立して欲しい。

武田：一昨年の事故時に連絡体制に不備があったため、事故後に調整し緊急の対応をした後に直ちに両市に連絡することになっている。

住民：大災害時の連絡体制はできているのか。

市：災害時には災害対策本部が設置され必要な連絡体制はとることになる。

住民：誰が、いつ、何を、どうするかをしっかり決めてもらいたい。

市：災害時の対応については、災害対策本部の関係もあるので改めて対応を考えたい。

住民：武田薬品の敷地は鎌倉・藤沢の両市にまたがっている。対応について差があるのではないか。藤沢市ではどのようにしているのか。

武田：市への報告、連絡会の開催、議会への報告と両市とも同じように対応している。

住民：こちらの社員の方かわからないが、バスでのマナーが悪いところがある。注意してほしい。

武田：交通マナーについては、既に何度か全勤務者へ通達しているが、今後も徹底していきたい。

住民：露出している排水管について、途中で漏れている場合の対応はしているのか。

武田：17カ所に設置している中継貯留槽までは露出配管であり、目視で確認を行うことができる。

一部の地下の配管については、定期的に排水を止めて点検を行い漏えいの有無について確認している。

5. その他

次回連絡会の開催は、今年度同様に環境調査の結果が5月頃まとまるので、それ以降に開催したいと考えている。

また、それ以外に委員の皆様から要望があれば、武田薬品と調整の上開催したいと考えていることを伝え、了承を得ました。